

# 小田原ならではの住まいづくり

コーディネーター：（一社）神奈川県建築士事務所協会県西支部

## 取組の背景

小田原市内の山々には広大な山林があります。豊かな気候、木材価格の低迷による手入不足などで、虫食いの材が増え、材としての評価が下がってゆくという悪循環にあります。そこで、この眠っている資源を調査し、住宅建材として活用する可能性を研究することとしました。

## 活動の狙い

このプロジェクトは小田原市の地場産業である小田原の木材を、住宅を中心とした建築物または工作物として、いかに取り入れ、どのように利用していくかを研究し、地場産の木材を使用し、地場の職人が手掛ける住まいづくりを実現することを目的としています。

## 実施内容

平成22年度に住まいについてのアンケート調査、小田原の木材事情を調査及びセミナーを開催しました。

平成23年度には地場産材の活用を研究するため、大学教授、設計事務所、林業、製材業、各職人団体、行政で構成する県西地域住まいづくり研究会を発足しました。研究会では近代建築物の調査などを実施し、地場産の木材を地元の職人が描ける住まいづくりを実現するための課題抽出、住まいづくりの提案・研究及び講演会を実施しました。

平成24年度からは、おだわら森林・林業・木材産業再生協議会等と連携し、木のいえワーキングチームを発足し、一夜城の外便所やバンガローの建設・検証をおこない小田原産材の実証実験をすると共に、流通の課題、材の認証、補助制度の確立等家づくりの実現に向け研究しています。

## 取組の成果

調査を進めるに従い、小田原の木材産業及び建設関係の各業界では、後継者不足などの様々な問題を抱え、苦悩していることがわかりました。人を知り、材料を知り、技能を知って将来を考えることがこの「無尽蔵」の役割であったと思っています。

今まで、あまり交流のなかった小田原市内の設計業界・建設業界・各種職人業界により検討したバンガローの完成は、横のつながりを強化するためにも大きな役割を担いました。

## 今後の展望

バンガローを作った時の検討会を更に発展させ、「木の家ワーキングチーム」として、小田原のモデル住宅のマニュアル作りをすすめています。それに伴い、次第に輪は広がり、大きな組織になろうとしています。小田原の建築職種集団が一体となって、交流していくことが今後の小田原の建築関連業界の発展につながることから、今後も小田原材の活用について取り組んでいきたいと考えています。



## 参考URL

[http://kensei-arch.net/report\\_taigai/index.html](http://kensei-arch.net/report_taigai/index.html)



## 取組の経緯

平成22年度

### 住まいについてのアンケート

小田原市民または小田原近郊の方々が「木造住宅」をどのように捉えているか、また、「小田原市に住むこと」についてアンケートを実施した。その結果、小田原には温暖な気候や海山の幸、歴史・文化の街として、住みやすさがあり、住んでみたい魅力があり、木造住宅・木の魅力に十分な関心があることがわかりました。

平成22年度

### 小田原の木材事情について調査

小田原の木材事情について、小田原林青会の協力を得て、調査しました。小田原の山に建築資材として十分使用できる樹木が、一般住宅に換算して約36,000棟分の蓄積量があること。また、木材の強度試験の結果、国土交通省の強度基準を十分に満たしていることが確認できました。さらに、害虫の被害木でも強度試験の結果、木材の強度には支障がないことを確認しました。

ただし、現状では、小田原市の木材はあまり流通されず、合板等に加工されるものが大部分を占めています。

平成23年度

### 小田原の近代木造建築物について調査

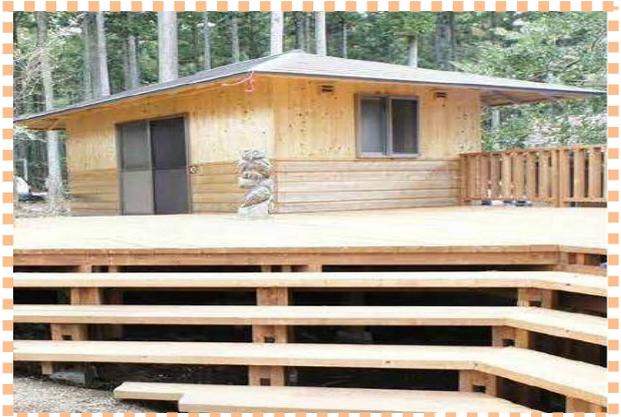
小田原には比較的暖かく、穏やかな気候を反映して、数多くの政治家・文化人が別荘を構え、そしてその関係者が小田原に住宅を構えました。これらの建物の多くが残されています。そのいくつかについて小田原市建築課の協力を得て、調査した結果、関東大震災から得た教訓に基づきそれなりの対策をとっていたことや、現在は見ることができない「小田原葺き」という屋根形式が室町末期から江戸・明治時代にかけて関東地方に大変広がっていたことがわかりました。

平成24・25年度

### 小田原産材のバンガロー新設

今まで、あまり交流のなかった小田原市内の設計業界・建設業界・各種職人業界が集まって検討し、小田原の森から木材を切り出し、小田原の施設によって乾燥させ、小田原の業者の設計で、小田原の職人の手によって加工し、小田原市いこいの森にバンガローを5棟建設しました。内外装とも木を表して使用し、木の良さを全面に出している。何度も検討会を開き、少しでも良いものをみんなの手で作ることを勧めました。虫食い部分もあるが、強度・仕上がりには支障はありません。

「小田原ならではの」モデル設計時には木のよさを十分に見せること、構造材や架構をみせること、「清閑亭」のように柱に丸みをもたせて柔らかい雰囲気を出すことに重点を置きました。また、天井は二重天井にし、空気層を設けることで、夏の直射熱を緩和していることが特徴です。



小田原ならではのモデルバンガロー外観



小田原ならではのモデルバンガロー内観(架構)